



本校は、浜松市の北部に位置する全校児童14名の小規模校です。周りは山と川に囲まれ、児童たちは自然豊かな環境の中、学年を超えた交流をしながら仲よく生活しています。「自分らしさを輝かせる子」を学校教育目標とし、一人ひとりの個性を輝かせることができるような活動が多く実践しています。

運動場にはシンボルとなる巨大な「かしの木」が植えられており、これまで100年以上に渡り地域からも親しまれてきました。学校の近くを流れる大千瀬川と相川では、アユ釣りが盛んです。本校の児童も浦川漁業協同組合の方々に御協力いただき、毎年5月に稚魚の放流を体験しています。

そして、地域の伝統芸能として、「浦川歌舞伎」があります。江戸時代に、歌舞伎役者の尾上栄三郎が浦川を訪れたことをきっかけに、村人たちによる浦川歌舞伎が盛んになりました。保存会の方々の指導を受け、令和元年度より小学校がその伝統を引き継いでいます。

私は令和2年度に新規採用の養護教諭として本校に赴任しました。赴任してまず取り組むべきは、地域の生活習慣や健康づくりについて、縦割りでのグループ活動や全体での意見交換など、児童生徒が主体的に考える機会となるよう工夫をしています。中学生が中心となり、小学生の意見も上手に聞きながら生き生きと活動する姿に、生徒の持つ力を

本校は、富士宮市の市街地から西北に位置する全校生徒86名の小規模校です。学区のある柚野の里は、平成24年から「ふじのくに美しく品格のある邑」に認定されています。裾野まで見える富士山はどこから眺めても雄大で美しく、豊かに広がる田園風景にホッと心が落ち着きます。学校のグラウンドを挟んですぐ隣には柚野小学校があるのも特徴で、伝統的に交流活動や合同行事を実施したり、小中職員による定例会や合同職員会議を行ったりしています。また、温かく子どもたちを見守ってくださる地

域の方々に支えられているなか、柚野小学校教育目標「柚野を愛し 柚野に学ぶ」「中学校・品格を高める」のもと、子どもたちは豊かな個性と健やかな心身を育んでいます。学校保健活動では、「自分の健康管理を意識し行動できる生徒」を目標に取り組んでいます。小中合同で行う学校保健委員会では、小中学校で課題を共有し、9年間で身に付けたい資質・能力を軸に活動を展開しています。「健康な身体や正しい生活習慣を主体的につくる柚野小中学生」をテーマに、より良い

生活習慣や健康づくりについて、縦割りでのグループ活動や全体での意見交換など、児童生徒が主体的に考える機会となるよう工夫をしています。中学生が中心となり、小学生の意見も上手に聞きながら生き生きと活動する姿に、生徒の持つ力を

生活習慣や健康づくりについて、縦割りでのグループ活動や全体での意見交換など、児童生徒が主体的に考える機会となるよう工夫をしています。中学生が中心となり、小学生の意見も上手に聞きながら生き生きと活動する姿に、生徒の持つ力を

富士宮市立柚野中学校

養護教諭 蓮池 有美



年間にはわたり見ることができ、良いか考えました。リモートを活用したり、対策をとりながら集会を行ったりと、アイデアを出し合い、その時々状況に合わせて新しい活動の方法を考え取り組みを行っています。生徒が主体となり、常時活動や小中



役場本庁舎



役場職員健康診断の様子

げんきな事業所

小山町役場

(駿東郡小山町藤曲57番地の2)

小山町は、静岡県の最北東端。金太郎生誕の地です。西に富士山、東に足柄峠、緑と水に恵まれています。東名高速道路や国道246号、138号が走り、交通アクセスが良い自然と調和した町です。

現在の小山町は、明治の終わりに東海道線の開通と富士紡績の操業により大きく発展し、大正元年8月1日に六合村と菅沼村が合併し誕生しました。現在の人口は約17000人で、町域の約65%が森林に囲まれ、富士山の伏流水が豊富なため、安全でおいしい水道水の料金は全国でも上位に入ります。また、交通の利便性を活かして、静岡県内の多くの観光客が訪れています。

そんな小山町に位置する小山町役場は、本庁舎のほか、3つの支所、健康福祉会館、小中学校、こども園、総合文化会館などの公共施設に約230名の職員と約200名の非常勤職員が勤務しています。

職員の健康状態を把握し、疾病を予防するため、非常勤職員を含む全ての職員を対象に毎年健康診断を実施しています。所見があった職員の内、産業医が特断した職員には、事後措置としてかかりつけ医などからの所見を提出させるなど、疾病への早期の対処や改善が図れるよう努力しています。

最新のストレス事情や管理職には部下の職場復帰時のポイント、一般職員にはメンタルヘルスを健康に保つポイントなど、職階に応じた研修を実施しました。

その他にも、月1回臨床心理士による相談を設け、メンタル不調者を未然に防ぐ環境の整備に努めています。今後も、時代の要請により職員が求められる責務はますます大きくなりますが、職員の健康管理だけにとどまらず、ワークライフバランスの取れた小山町役場の構築を目指し、衛生委員会を中心に全庁的な取組を推進して参ります。

【職員の健康管理】

【メンタルヘルスの取組】

小山町は、静岡県の最北東端。金太郎生誕の地です。西に富士山、東に足柄峠、緑と水に恵まれています。東名高速道路や国道246号、138号が走り、交通アクセスが良い自然と調和した町です。

現在の小山町は、明治の終わりに東海道線の開通と富士紡績の操業により大きく発展し、大正元年8月1日に六合村と菅沼村が合併し誕生しました。現在の人口は約17000人で、町域の約65%が森林に囲まれ、富士山の伏流水が豊富なため、安全でおいしい水道水の料金は全国でも上位に入ります。また、交通の利便性を活かして、静岡県内の多くの観光客が訪れています。

そんな小山町に位置する小山町役場は、本庁舎のほか、3つの支所、健康福祉会館、小中学校、こども園、総合文化会館などの公共施設に約230名の職員と約200名の非常勤職員が勤務しています。

職員の健康状態を把握し、疾病を予防するため、非常勤職員を含む全ての職員を対象に毎年健康診断を実施しています。所見があった職員の内、産業医が特断した職員には、事後措置としてかかりつけ医などからの所見を提出させるなど、疾病への早期の対処や改善が図れるよう努力しています。

最新のストレス事情や管理職には部下の職場復帰時のポイント、一般職員にはメンタルヘルスを健康に保つポイントなど、職階に応じた研修を実施しました。

その他にも、月1回臨床心理士による相談を設け、メンタル不調者を未然に防ぐ環境の整備に努めています。今後も、時代の要請により職員が求められる責務はますます大きくなりますが、職員の健康管理だけにとどまらず、ワークライフバランスの取れた小山町役場の構築を目指し、衛生委員会を中心に全庁的な取組を推進して参ります。